

ナショナル・バイオリソース・プロジェクト 中核拠点整備プログラム
広義キク属 平成 20 年度 運営委員会議事録

日時：2008 年 10 月 14 日 14 時～16 時

場所：広島大学理学研究科 附属植物遺伝子保管実験施設 1F 会議室

出席者

運営委員 渡辺邦秋（運営委員会委員長，神戸大），間竜太郎（農研機構花き研），入船浩平（広島県立大），中田政司（富山中央植物園），長谷川徹（愛知県農業試験場），星良和（東海大），米沢義彦（鳴門教育大）

NBRP メンバー 草場信（代表，広島大），谷口研至（広島大），増田優（広島大）

オブザーバー 平賀勸（文科相ライフサイエンス課），山崎由紀子（遺伝研），葛籠勝彦（ひろしま技術移転センター）

（敬称略）

1. 報告事項

1) モデル植物の選定：

キクタニギク（アブラギク）：キク属の二倍体種。（詳細は協議事項）

2) 雑種判定のためのマーカー作成

1 コピーの遺伝子のイントロンの DNA 多型のマーカー化・リボゾーム遺伝子スペーサー領域の DNA 多型のマーカー化により、いくつかの種で、種の判別と個体間の判別の両方が可能になっている。これらの情報は人工的に作成した雑種の判別、あるいは系統の維持に関しても有用であるだけでなく、品種判別等にも利用出来る可能性がある。今後、判別できる種数を増やす。

3) 収集した全系統の保管、増殖、提供

コアコレクションの選定等を行う。連作障害を避けるシステムティックな圃場管理のための圃場改修を行う予定である。二倍体種間の F₂ 集団の作成等を行う。

4) データベースの充実・公開

いくつかの既存のデータベースとのリンク、情報の充実により使いやすいホームページとする。（運営委員会後、一部検索に掛かりにくい設定となっていた部分を改良した）

5) プロジェクトの総合的推進

様々な学会での宣伝活動等、広報活動を活発化させる必要がある。

2. 協議事項

1) モデル植物の選定

キク属の二倍体種キクタニギクをモデル植物候補として選定した。キク属の代表的な特徴を有しているとともに、栽培が容易であり、多くの種子を稔実させる。一般にキク属は他殖性を有するが少なくともこの種は自殖可能である。キク属の特徴のひとつは種間での交雑が容易なことである。これは種間で観察される様々な変異に分子遺伝学的に迫って行くことが出来ることを意味する。その標準品種としての利用を想定している。ただし、キク属モデル植物として実際に有用性を高めるためには、いくつかの検討すべき点がある。今後、純系化、交配法の改良、形質転換法の確立等を検討して行く必要があるとともに、リソースとして必要な様々な付加価値を付けることを目指して行く。

2) 実費徴収の実施に向けた検討

カード等を用いた実費徴収は、ユーザに対する負担が大きくなり過ぎることから難しい。郵送費以外の支出は現在のところ限定的であるため、事務的な問題等も鑑み、実費徴収は着払いの形で、郵送費を徴収することで行っていきたい。